



神奈川大学フロンティアクラブ会報

発行日 2015年2月10日
編集・発行 神奈川大学フロンティアクラブ
組織・広報専門委員会
事務局 神奈川大学 総務部校友課内
〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1
TEL.045-481-5661 (代)
FAX.045-481-2741

第 23 号

平成27年度フロンティアクラブ総会講演要旨



講師 古川 祐一氏
神奈川大学 硬式野球部監督 (平成5年経済卒)

「準V」野球から ベ이스ボールへ

最初に、昨年、我々硬式野球部は、春季リーグ戦で通算50回目の優勝を果たし、第63回全日本大学野球選手権大会に出場し準優勝の成績を納めることができました。

運んでいただき、多大なるご支援を頂戴いたしました。皆様のご支援が選手たちの励みにもなり、このような結果に繋がった事と思えます。この場をお借りして御礼申し上げます。

フロンティアクラブの皆様には、ご多用中に拘わらずリーグ戦より球場へ足を

さて、この度は、このよ うな機会を頂戴いたしまし

1ツは、野球道とも言われるように「精神力・体力・努力」で語られるものでした。しかし、近年は、情報化時代に突入し科学的な根拠、戦術戦法、指導方法の変化が以前に増して盛んに言われるようになりました。また、スカウティングに關しても、高校生は売り手市場となっており、成績を残さなければよい選手が獲得できないなど非常に苦しい現実があります。今回の講演では、そのような野球からベースボールに変化した近代野球について自身の経験も踏まえ幅広くご説明いたします。



講師プロフィール
古川 祐一 (ふるかわ ゆういち)
▽東京都出身・都立足立西高等学校・神奈川大学第二経済学部経済学科 (1993年卒業)・TDK硬式野球部 (1992年~2000年)
▽TDK硬式野球部コーチ (2000年~2002年)・神奈川大学硬式野球部コーチ (2003年~2007年)・神奈川大学硬式野球部監督 (2007年7月~現在に至る)・第5回世界大学野球選手権大会 日本代表チームコーチ (2009年)・第37回日米大学野球選手権大会 日本代表チームコーチ (2009年)
戦績
2003年 秋季リーグ戦優勝、第34回明治神宮野球大会出場 準優勝
2004年 春季リーグ戦優勝、第53回全日本大学野球選手権大会出場 (2回戦敗退)、秋季リーグ戦優勝
2008年 春季リーグ戦優勝、第57回全日本大学野球選手権大会出場 (2回戦敗退)
2009年 秋季リーグ戦優勝
2010年 第41回明治神宮野球大会出場 (関東5連盟第二代表) ベスト4
2014年 春季リーグ戦優勝、第63回全日本大学野球選手権大会出場 準優勝
プロ野球選手 (2003年~現在)・荻野忠寛 (千葉ロッテマリーンズ 2007年~2014年)・北野洸貴 (東京ヤクルトスワローズ 育成2011年~2012年)・中村恵吾 (福岡ソフトバンクホークス 育成2015年~)

年頭所感

創立100周年を見据えて

学校法人神奈川大学 理事長 正野 幸延 (昭和38年工学部・応用化学科卒)



期生として卒業し、その後、理研ビニル工業株式会社 (現リケンテック) を経て、平成20年9月より学校法人神奈川大学の常務理事を2期6年勤めた後、昨年9月23日理事長を拝命いたしました。

その上で、将来構想と中期財政計画の整合性を図り、選ばれる大学、言い換えれば教育面においても研究面においても魅力ある大学となるべく第二期中期実行計画の立案、推進に向かうことが求められているところです。

フロンティアクラブの皆様には、日頃より神奈川大学に對しまして、多大なご支援、ご協力を賜り、誠にありがとうございます。神奈川大学を代表して厚く御礼を申し上げます。

理 事 長 と し て 重 責 を 感 じているところでございますが、伊藤前理事長が築いた安定的な理事会運営を継続し、「将来構想」に掲げましたように、母校神奈川大学並びに附属学校が将来さらに発展するよう、全力を尽くす所存でございます。

その上で、将来構想と中期財政計画の整合性を図り、選ばれる大学、言い換えれば教育面においても研究面においても魅力ある大学となるべく第二期中期実行計画の立案、推進に向かうことが求められているところです。

私もお一人でございますので、ご存知の方も多いかと存じますが、改めて自己紹介をさせていただきます。私は、昭和38年に神奈川大学工学部応用化学科の第一

さて、神奈川大学も創立87年を迎える年となりました。創立80周年を機に策定した「学校法人神奈川大学将来構想」に基づき計画した第一期中期実行計画を鋭意進めているところです。平成27年度はその最終年度となります。そこで、一年を駆け第一期中期実行計画を踏まえながら、次の第二期中期実行計画の策定に取り組んでいくわけですが、大学を取り巻く環境は、ご存知のとおり大きな岐路にさしかかっています。高等教育政策における様々な動向、例えば、平成24年の「大学改革実行プラン」や平成25年の教育再生実行会議の大学改革の提言、昨年末にあった中央教育審議会

からの答申などをとってみても、これまでの旧態然とした体制では、速やかな対応はなかなか難しいところですが、そのため、経営の政策的最適化を迅速に進めていくことが肝要であると感じております。その上で、将来構想と中期財政計画の整合性を図り、選ばれる大学、言い換えれば教育面においても研究面においても魅力ある大学となるべく第二期中期実行計画の立案、推進に向かうことが求められているところです。

平成27年度 神奈川大学 フロンティアクラブ 総会
開催日時: 平成27年2月28日(土) 午後2時から
開催場所: ホテルキャメロットジャパン4F(横浜駅西口)
午後2時00分 【総会】
・平成26年度事業報告および決算
・平成26年度委員会報告・平成27年度事業計画(案)
・平成27年度事業計画および予算(案)
・会則の改定について(案)
・その他
午後2時45分 【大学の現況について】
理事長 正野 幸延氏
学長 石積 勝氏
午後3時30分 【講演会】
演題 「準V」野球からベースボールへ
講師 古川 祐一氏 (神奈川大学硬式野球部監督)
午後5時00分 【懇親会】



総会 (26年度)



講演会 (同)



懇親会 (同)

当日のスケジュール

神奈川大学 フロンティアクラブ 平成26年度 年間ニュース

フロンティアクラブ	神奈川大学
1月 1月第76回フロンティアサロン (タッセ企画 代表 高瀬 親史氏 S40 工経卒) フロンティアクラブ会報 第21号発行	1月 【陸上競技部駅伝チーム】 第90 回箱根駅伝出場
2月 平成26年度神奈川大学フロンティアクラブ総会 講演会【神奈川大学水泳部プランディング】 (神奈川大学体育会水泳部 監督 舟橋 道成氏)	2月 【水泳部】 第55回日本選手権(25m)水泳競技大会 太田晴菜選手 200m 背泳ぎ 2位入賞
3月 第77回フロンティアサロン (神奈川大学法学部 教授 細田 孝一氏) 2013年度卒業式・学位授与式列席	3月 横浜キャンパスに新棟(3号館)竣工 「神奈川大学展示ホール」開設 2013年度卒業式・学位授与式
4月 2014年度入学式列席 第4回箱根交流会	4月 2014年度入学式、 【水泳部】 第90回日本選手権水泳競技大会 渡辺耶唯選手 200m バタフライ 3位入賞 渡辺美根選手 800m 自由形 3位入賞 シンポジウム「次世代のエネルギーを考える」を開催
5月 第78回フロンティアサロン (神奈川大学工学部 名誉教授 北岡 正敏氏) 吉盛忍参列(供花)	5月 【硬式野球部】 神奈川大学野球リーグ優勝 吉盛忍
6月	6月 【硬式野球部】 第63回全日本大学野球選手権大会準優勝
7月 平成26年度村橋・フロンティア奨学金授与式 第79回フロンティアサロン (エスエス労働問題・労務管理事務所特定社会保険労務士 佐藤 重夫氏 S45 経済卒)	7月 平成26年度村橋・フロンティア奨学金授与式 【水泳部】 ジャパンオープン2014 太田晴菜選手 200m 背泳ぎ 2位入賞 みなとみらいエクステンションセンター〈KUポートスクウェア〉開設 10周年記念フェア開催
8月 第1回企業見学会及び交流会	8月
9月 フロンティアクラブ会報 第22号発行 第80回フロンティアサロン(未来環境テクノロジー株式会社 CTO / 神奈川大学特別招聘教授 田嶋 和夫氏)	9月 【水泳部】 第90回日本学生選手権水泳競技大会 渡辺耶唯選手 200m バタフライ初優勝 女子総合 3位に入賞 新理事長 正野 幸延氏 就任
10月 第20回ホームカミングデー 鏡開きに会長登壇	10月 第20回ホームカミングデー 【陸上競技部駅伝チーム】 第91 回箱根駅伝予選会 1位通過、神大テクノフェスタ2014開催
11月 第81回フロンティアサロン (株式会社東急ホテルズ 執行役員 運営部長 末吉 孝弘氏 S60 法律卒)、第5回箱根交流会	11月
12月 奨学生のつどい	12月 奨学生のつどい
1月	1月 【陸上競技部駅伝チーム】 第91 回箱根駅伝出場

PICKUP!

PICKUP!



2014年10月24日(金)に神大テクノフェスタ2014が開催されました。

「神大テクノフェスタ」は、(暮らしと環境の未来)をテーマに本学工学系の研究実績を社会に広くアピールするため、本学工学部、工学研究科(大学院)、工学研究所主催で2008年より毎年開催しているイベントです。今年で7回目を迎えた本イベントには、企業関係者・一般参加者・学生あわせて約600名が参加し、本学教授による講演会や学生の研究発表、さら

には研究の実演展示として、先日高高度昇降実験で1000メートルを超える記録をのこした宇宙エレベータ1・2足歩行ロボット等を展示いたしました。また、多くの学生でにぎわう企業の展示ブースも多数設置され、イベントの後半では技術・情報交換会も実施、産学連携のための貴重な交流の場となっております。

フロンティアクラブ会員の皆様も、企業展示でもしくは一般でのご参加で、本学の未来に向けた研究に触れていただき、産学連携を盛り上げていただければ幸いです。

【お問い合わせ先】 techno-festa@kanagawa-u.ac.jp

平成25~26年度
新規入会者
にお寄せいただいた
自己紹介です。



大見 勝仁(昭和43年貿易卒)

大学時代、菊名に下宿(鵜池のおばあちゃん宅)。鵜池家は3部屋あり1部屋はご主人鵜池のおばあちゃん、残りの2部屋が神大の学生。一人は私で、もう一人は横山さん。神大2年先輩(群馬県馬場の出身)。下宿先は菊名駅からだいたい距離が有り、網島街道を横断し、蓮勝寺



本当?不思議だなあ! THE SENSE OF WONDER

小林 昭夫(昭和50年経済卒)



1961年10月、小学4年生の時、担任の先生と山頂で溢れるような満天の星空を知った。1970年11月、文部事務官として広島大学で知った市谷陸上自衛隊駐屯地での三島事件に感動、神奈川大学を知る。翌年広大での神奈川大学地方試験を受験し入学。ここ

ろが、大学ロックアウトで授業がなく、ハイキング部「あし」に入部、4年までリーダーを務めた。金融機関に就職したサラリーマン時代に、大病患入院していた時、頭の中にいつもあの満点の星空があった。還暦を迎えた今、森林保護のためボランティア活動に汗を流している。

WONDERは不思議だなあ!という心のときめきだ。そのときめきを「fulfilling」持つことを「fulfilling」針盤となっていた。

前を通りさらに上。大学の行き帰りは大変疲れた。銭湯も駅の近くで風呂に行くのも夏は汗、冬はすぐ冷えてしまい大変だった。東横線で通学した。

学生時代の思い出は多くないが、文化祭に貿易研究部で作成したパネルの説明を担当。当時G.A.T.T.が大きな問題となっていた。いろいろの質問を受け、冷や汗をかいた。貿易研究部の先輩に菊池さん、山下さん、香西さんといった先輩の名前を思い出す。今どこで何をされているのかわからない。当時、安保闘争が大きい。世間を騒がせていた。又、ベトナム戦争の真つ只中で、厚木基地にベトナムから米兵の死体がどんどん運ばれ、アルバイトで死体の処理に行っていた学生もいた。何かの縁でアメリカ兵と友達になり、米軍横須賀基地の中を案内してもらったり、走り始めて間もない新幹線、故郷の安城の実家につ

今で言うMRをしていた。病院回りが仕事で医者に薬の効能を説明することが仕事であった。ほぼ5年で転職する、いわゆる転勤族で名古屋、富山、再び名古屋。

屋、神戸と転勤した。神戸で退社。退社の2年後に阪神淡路大震災があり、大変な被害が出たことは記憶に新しい。神戸で生活していたら今頃どうなっていたかわからない。その後愛知県に戻り、知り合いの社長から「うちに来ないか」ということで建設資材の会社に勤務。その後、現在の(株)東祥に入社。この会社はホリデイスポーツクラブ、Aホテル、賃貸マンションを3本柱とし、スポーツクラブは全国展開している。

ホリデイスポーツクラブは現在61店舗あり、監査役の立場で北海道から九州まで回り毎年数店舗監査している。

東京の丸の内に東京事務所を構え関東圏の進出を図っているが、なかなかよい立地が見つからず苦戦している。横浜でもよい立地があれば進出していく予定である。

ともあれ、古希を迎えまだ現役で働かせていただいていることに感謝している。

「良いホテルとは？」

ホスピタリティービジネス、特にホテルビジネスの抱える問題と将来について

2020年東京オリンピックに向け、観光産業、とりわけ日本のホテル業等のホスピタリティービジネスが注目を集めています。私の周りでも、首都圏のホテルは2014年に入り、来日外国人客増もあり、高稼働、高単価で活況を呈しています。円安や質の高いホスピタリティー、安全性や「和食」「富士山」等のユネスコ世界遺産登録により、今後ますます海外から

の観光客を中心にニーズの高まる日本の基幹産業の一つになる業界です。しかしながら一方では、H26年厚生労働省発表「新規大学卒業就職者別離職状況」によると大卒離職率は52・3%で、新入社員2人に一人

が退職してしまっている現状があります。長かった不況を経て、リストラや過度の効率化によりいつの間にかキツイ職場の一つとなつてしまい、景気の良くなつた今では業界全体として慢性的な人材不足に陥り、ま

た、教育や人材育成にも時間をかけてこなかったことから、お客様に対する十分なサービスもできない状況になってしまっています。もっと若くて優秀な人材がこの業界に入り、日本を支えなくてはならないはずであるのに、残念な限りです。

(プライバシーがない)の中で、他者を気遣いながら、微妙な人間関係を維持してきた日本人の生活文化から生まれた「おもてなしスピリッツ」は、今や西洋化した個室を持つ生活様式で育った世代には欠如してしま

ている。KY(空気の読めない)な日本人が増えて、「気」の利かない「気」のつかない若者達がどんどん社会に出て行く現状では、本当の「おもてなし」が自然とできるスタッフがどれだけホテルの現場にいるか疑問です。ホスピタリティービジネスで働きたいと思っている人に必要なのは、まさに「気」というキーワードに集約された資質です。今後のこの業界にお



東急ホテルズ執行役員運営部長
(ホスピタリティービジネス研究家)
末吉 孝弘 (昭和60年法律卒)

自己紹介 私は法学部法律学科出身で、一時期弁護士を目指していたため、大学時代は家→大学→図書館→家という暗い生活をしてきた。3年のときにアストン大学に夏季研修に派遣していただき、人生が大きく変わりました。そのとき体験することができた世界は、後に多様性の中で働くこと、様々な価値観があっただけでなく、世界は広く自分はちっぽけな存在であること等、いろいろな気づきを私に与えてくれました。おかげで大学では、法律以外に多くの科目を履修し、卒業時には240単位になりました。このことが社会に出て多様な自分の引き出しとなり、積極的に様々なことにチャレンジする源となっています。夢を口に出して語り、行動を起こす。全てが大学生活で学んだことです。

日本文化の変化から、今「おもてなし」が危機に瀕しているのも事実です。日本のお家芸である「おもてなし」というホスピタリティーは、外国式のチェーンにありがちなマニュアルではなく、生まれ持った「気づき」がベースとなったサービスの付加価値です。大家族で、襖(ふすま)一枚で区切られた家

「おもてなし」がベースとなったサービスの付加価値です。大家族で、襖(ふすま)一枚で区切られた家

良いホテルとは、「儲かるホテル」だと私はどこへ行っても言うことにはしていません。それは、儲からないお金がない!!と、従業員に十分な給与を払えない、サービス人数も十分ではない、お客様にかけられる費用も削る等、従業員もお客様も幸せにできないからです。良いホテルとは儲かるホテルです。但し目的はお金ではありません。その先にあるみんなの幸せです。



ける一番の課題は人材育成です。そしてベースには楽しく働いて、自分自身も幸せになれる(経済的にも)職場環境も重要になります。入社ときは女性の比率が高くて、女性管理職が極端に少ないのも、この業界の問題点を図らずも現しています。自分が幸せになれなくて、お客様を幸せにできるはずがありません。女性が生き生きと長く働けなくて、長く女性のお客様から愛されるホテルができるわけありません。

楯登 (昭和47年建築卒)



小生、昭和24年5月28日生まれ、満65歳です。群馬県で小学・中学・高校と学びました。

昭和43年4月神奈川大学工学部建築学科に入学、昭和47年3月建築学科を卒業。4月より佐田建設株式会社に入社。現在に至っています。入社して直にオイルシ

ョック、バブル崩壊による建設業界冬の時代等を経験。団塊の世代として幾多の嵐にもまれ、現在役職は、平成26年6月に取締役兼建築本部長を退任、顧問として勤務しています。

学生時代の思い出は、学生運動が盛んな時期に遭遇。前期の試験がバリケード封鎖で延期。レポート提出及び追試になり予定が大幅に変わった事でした。クラブ活動は、自動車工学研究部に所属。あまり熱

心な部員ではありませんでしたが、学業とクラブ及びアルバイトを組み合わせた後仲間と定期的に懇親を深めています。

ですが宜しくお願い致します。イベントのご案内を頂いていますが参加できず恐縮しています。

最後になりますが、フロンティアクラブのご発展と会員皆様のご健勝を祈念して、挨拶といたします。



松浦 浩明 (昭和57年機械卒)

在学中はアーチェリー部に所属し、全国から集まった仲間とリーグ戦優勝をめざし練習。その後、先輩や後輩と六角橋の居酒屋で朝まで夢を語り合いました。

今でもOB会に集えば30年の時を超えて「熱く語る」

とのできる仲間」を得たことが最高の財産です。また箱根駅伝ほか現役生の活躍は、神大の誇りとして心強く思います。業務の都合でなかなかFCの活動に参加できず申し訳ありません。

会員皆様方のご多幸とご健勝をお祈り申し上げます。紹介とさせて頂きます。(スズキ株式会社生産技術本部長・常務役員)

藤原 剛 (昭和47年電気卒)



工学部電気工学科を卒業し、実家に近い関西企業という事で京都に本社のある立石電機(現オムロン株)に入社。勤務は希望の研究室内ではなく苦手な営業

職に配属となった。半年間は全く売れなくて、営業は自分に向いていないのではと悩んだが、優秀な先輩には売れるには売れる理由があった。他の人とは違う色々な工夫をしていたのだ。自分も努力して色々な工夫をしてみると、段々と売れるようになり、営業の面白さが判ってきて、それでは

と営業のTOPを目指す。オムロン時代は営業職だけでなく新規事業部門を始めとして様々な職種を経験。アマノに転籍した後も本部長、執行役員、グループ会社社長、業界の会長等々を歴任し現在の常勤監査役に至る。これまでの様々な経験と異業種交流で知遇を得た人達が私の財産である。

乱万丈の半生。この度、久保さんに緑を頂き感謝です。



箕輪 義夫 (昭和63年貿易卒)

私は、昭和63年に貿易学科を卒業し、京浜急行電鉄株式会社に入社しました。

急カントリークラブへ出向、社長に着任いたしました。ゴルフは、世代を超えて一

緒にできる唯一のスポーツだと思えます。フロンティアクラブの皆様方のご利用の際は、できる限りご要望にお応えいたしたいと存じますので、今後ともよろしくお願いいたします。

ichiharakeikyuu.co.jp

会員ピックアップ

襷をつないで行きたい、もう一つの神大駅伝 後輩達に望む英字新聞 The Clarion の発行継続

こが 古家 秀紀 (昭和38年貿易卒 [三井物産⑭OB])

The Clarion 発刊の経緯

母校に The Clarion が復活してから、今年は6年目になる。The Clarion は、神大の学生が作る英字新聞である。この新聞は、今から55年前の1959 (S.34) 年11月、神大創立30周年を記念して当時の英語教授・須藤兼吉先生などのご指導を得て ESS (English Speaking Society) の機関紙として創刊された。紙面の充実、発行回数を増やす目的などの理由から、第4号からは EPS (English Press Society) が発行主体となり最盛期は年に5回も発行、1972 (S.47) 年4月まで存続した。しかし、大学紛争時に学生側にクラブ活動をするゆとりがなくなり、The Clarion も自然休刊になってしまった。

The Clarion という題字は創刊時、須藤先生が命名して下さったもの。“clarion”とは、西欧の古代戦場において澄みきった音色で高らかな音を出すラッパのことで、士気を鼓舞するために使われていたという。国際港都・横浜で学ぶ神大生に、神大が英語教育に力を入れていること、一人一人の学生が英語に親近感を持って勉強をしてもらいたい。そのために、英字新聞 The Clarion は自分達の仲間によって発行されるもので、英語を身近に感じ、英語は難しいものではないことを説き、無気力を打破する進軍ラッパとなるよう須藤先生は願っておられた。

創刊時に1年生の ESS 部員だった私は、執筆など直接関わることはなかった。初代編集長の瀬戸進一先輩 (故人) に口説かれ第2号から関与し、結局、卒業するまでの4年間、The Clarion の発行に勤しむ学生生活となった。卒業後、入社した会社では神大貿易学科で学んだ専門科目の知識だけでなく、神大で培った英語を話して書く能力も存分に発揮することができ、大学で勉強したことがことごとく役立った。このような実体験から、宮陵会の平成12年度全国支

部長会議の分科会で、「日本で少子化が進み大学が生き残り合戦に入っている時、我々卒業生は母校を如何にサポートすることが出来るか」について討議する機会があった。私は、「神大がもっと国際化して欲しい」「国際人の育成にかけては、日本一という大学になってほしい」と申し上げ、内心、The Clarion を学内に復活させることで母校に恩返しをすることができると考えた。即ち、現役の後輩達が新聞発行を通じて彼等の英語力を向上することに貢献できると。

復刊活動

幸いこの復刊活動には、The Clarion OB の名和隼男さん (S.41 年貿易卒) と梅沢英紀さん (S.42 年貿易卒) が協力してくれることになった。活動を Phase I (計画段階)、Phase II (在学生に復刊参加を呼びかける為の「刺激号」発行段階)、Phase III (集まった学生を OB が指導して学生が自分達で発行する体制を作る段階)、Phase IV (OB が指導するのをやめ学生が自主的に発行を継続して行く段階) に分け、復刊の実現を図って行くことにした。その構想に沿い、2001 (平成13) 年5月1日に Phase I の計画書を練り上げ、「復刊刺激号」の編集作業と資金集めを開始した。同年11月に学生を募るための「刺激号」が完成。それを母校に持ち込み The Clarion の発行に興味を持つ学生を募集したところ、希望者が集まった。彼等が大学に創部の申請をしたが、却下となってしまった。その報告を学生達から受けたので確かめたとこと事実で、覆水は盆に帰らず。それ以上動きようがなく、後の祭りになってしまった。

不許可となったのは「創部を認めるには最低10名の部員が必要で、申請が7名だったため」との大学側の説明だった。不足の3名を追加で集めるのは可能だったと思う。あの時に何故大学側から我々 OB に対して一言も審査の途中状況の報せがなかったのか。今でも悔やまれてならない。若し、その連絡を受けていたら、更に3人を追加募集し修

平成26年度を振り返って

箱根交流会

久保清治 (昭和43年貿易卒)

11月28～29日、一泊二日の秋の箱根交流会 (第五回目) に初めて参加しました。

第一日目は御殿場インターから直ぐ近くの富士CCにてゴルフ・コンペ、約20名が参加。五ホール目までは晴れていて、眼前に雄大な富士山の全景が迫り、ところどころ紅の楓が目にも染みる。落葉を踏みながらの実に素晴らしい光景。

ラウンドは、パートナー (元理事長の白井さん、倉庫会社の



元社長で一年後輩の鈴木忠さん、大学の総務部長の原田さん) に恵まれて、楽しい会話を交えてのプレー。

新ペリ方式で、私は、隠しホールで運よくハンディーを多くもらい、優勝しました。有難き幸せ。十数年間、仕事が多忙でゴルフ・クラブを握れませんでした。退職後二年前から老骨筋にムチ打って練習を再開。しかし、スコアは元に戻らず、今回は51と53の104で目標の100を切ることは能わず。

なかなか格好いいトロフィー。賞品は幹事の實方副会長の計らいで多種の美味しい魚の干物。家族で毎日賞味させて頂きました。

当日の夜は、大学の箱根保養所に約30名が集まり、賑やかな大宴会。日本酒・焼酎・ワインなどの名酒を持ち寄り呑み放

正申告をすれば許可は出て、その結果2002年春には英字新聞部は立ち上がり復刊が実現していたのにと考えると、今でも忘れることのできない悔しい思い出。実際に Phase III の復刊第1号が実現したのは2009年3月だった。7年間の「遅れ」を余儀なくされたことになる。

結局、復刊は、当時の中島三千男学長が学内に英字新聞があった方が良いとの判断で、直接 ESS (English Studying Society、英語研究部) に実行を呼びかけて下さったことで実現した。ESS が英字新聞編集委員会を立ち上げ、これに我々 OB が記事原稿の添削や広告集めなどを手助けし、復刊第1号は2009年3月、第2号は2011年12月、第3号は2013年3月、そして第4号を昨年4月に発行することができた。第2号からは東京都内と神奈川・静岡県内の全高校835校に対して、神大のPRのために The Clarion を2部ずつ各校の校長先生宛に郵送。1部は英語担当の先生方に回覧を、もう1部は図書室において生徒達の目に触れるようお願いしてきた。或る都立高校では掲載写真の通り、図書室に一流の日刊紙と同じように閉じ込みで The Clarion を一番目立つ処において下さっている。見て感激した。

課題

今年、第5号は、Phase IV の手法 (OB 側の手助けを減らす) で発行準備に入ったところである。これまで米国人の先生が Native Check に協力して下さったが、時間的に困難となってしまった。代わりの先生を大学にお願いしたが、「OB の情熱と学生の意欲に乖離がある」との理由で、未だ代わりの先生を紹介して頂く域には至っていない。英語英文学科を有する母校ゆえ、Native Check をして下さる先生を是非つけて頂いて新聞の Quality 維持に学生が注力することへの支援をしていただきたいと願っている。Phase IV は OB の手助けを不要にする前提のスキームだ。が、新聞の Quality が落ちて母校に恥をかかせたり名誉を傷つけるものであってはならないので、現時点においては、その体制ができるまでは、印刷する前の全ての原稿を OB がチェックする体制を残すことが必要と判断している。

過去4回の発行結果に対する反響を纏めると、各方面からお褒めの言葉を頂いている。この波動をさらに大きくするのが母校の学生達の役割ではないかと密かに期待してい



都立町田高等学校図書室

る。OB がそれをサポートするのは言うまでもない。

更に大きな問題点としては、現在の ESS が Speaking 重点のクラブ活動になっていることだ。昔は、ESS のフルネームが “English Speaking Society” で良かったかも知れない。が、今は “English Studying Society” に変わっていることでもあるので、The Clarion の発行については、“Section 5” を新たに発足させ、そこで専門的に作業を進めることにして、ESS が Speaking のみではなく Writing 能力の錬磨にも力を入れることが望ましいとアドバイスしている。

グローバル化の波がひたひたと大きく打ちよせてくる中、Section 5 ができると、母校の英語教育において Writing 能力を向上させる有効な仕組みになる。かつて中島前学長が ESS の学生達に直接声掛けをして下さったことが、彼等の意欲を高め復刊実現の原動力になったことを考えると、大学当局からも学生を鼓舞して下さることを切望している。これは今後の神大発展のためにも役立つと信じる。「駅伝」振興と同様に、大学当局が学生の努力を評価して下さることを卒業生として強く願う。

国際港都・横浜に神大を創設した米田吉盛先生は、貿易学科に力をいれ、英語教育を重視しておられた。現役の後輩達に対しては、ことある毎に、英語を在学中に真面目にこつこつと、Speaking のみではなく、特に Writing 能力の向上を意識して勉強するように話している。最後に、フロンティアクラブの会員を始め卒業生の皆様が、The Clarion の発行に力を注ぐ現役生の後輩達を応援して下さいを切にお願い申し上げます。

題。コース料理、特注のさしみの舟盛りを囲んで、大いに話が弾み、ラウンジで二次会。学生時代の思い出が頭を過ぎり、就寝は夜中になりました。

翌日、朝食が出て、午前中に各自解散。楽しかった。懐かしかった。元気をもらいました。

当交流会の裏方を務めていただいた事務局の皆様、ありがとうございます。次回の開催を今から楽しみにしております。

喉を潤した麒麟横浜工場見学

組織・広報委員長 原柳作 (昭和46年英語英文卒)

「第1回施設見学会・交流会」が昨年8月27日、麒麟ビール横浜工場が開かれた。参加者は総勢22名。最初に同社副工場長の有川さんから歴史や国内拠点、ブランディングなどの

説明を受けた。その後、ビールの素材や醗酵菌など普段目にするることのできない生産ラインを見学。案内役の女性係員の説明はわかりやすく (かなり事前に予行練習をしたとか)、麦汁も試飲できた。

見学後は、試飲コーナーで出来たてビールを味わった。さすがにおいしい。その後会場をレストランに移し懇親会。大学の昔話や新築となった3号館キャンパスの話などに花を咲かせた。盛会だったこともあり「是非、またやろう!」と多くの先輩方の声。集客から当日の運営まで一切を取り仕切った事務局・交友課の皆さんに感謝申し上げます。

<お願い> フロンティア会員の皆様へ 見聞を広め会員相互の交流を図るため、工場見学や施設見学、体験学習など受け入れ可能な場合はぜひ事務局までご一報ください。よろしくお祈りいたします。